



筑波大学
University of Tsukuba

筑波大学大学院人間総合科学研究科
博士課程（前期） 心理専攻

シラバス 2010

2010年4月1日

人間総合科学研究科前期課程心理専攻の教育目標

1 人材養成の目的

心理学の基礎研究の成果および方法論を社会に還元できるような、有為な人材を養成する。具体的には、臨床心理士、感性工学・人間工学に関わる専門家、社会調査及び市場調査など社会心理状況を分析する専門家、人事管理・人事評価に関わる専門家、高度な専門性を持った公務員の育成を目指す。

2 教育の目標

心理専攻は、心理基礎コース（知覚・認知、教育・発達、社会心理学の3分野）と心理臨床コース（発達臨床心理学、臨床心理学）の2コースから構成され、基礎から応用まで、また心理学の多彩な分野についての高度な教育・研究指導を行っている。主な教育目標は以下の3点である。

- ① 広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成。
- ② 心理学的方法論を駆使して問題を実証的に分析する能力の養成。
- ③ 現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner（科学者-臨床家）としての能力の養成。

心理基礎コースは特に、心理学的方法論をツールとして十分使いこなし、問題発見から解決への道筋を見いだす、幅広い視野と技能を有した高度職業人・研究者としての能力を育むことを目指す。

心理臨床コースは特に、心理学の最新の研究成果に精通した研究者であると同時に、現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner（科学者-臨床家）としての能力を育むことを目指す。

3 教育の方針

心理学方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（専攻共通科目）を必修とし、心理的測定から解析に至る心理学の方法論（心理学的測定・調査・実験・観察・相互作用分析など）を集中的に学び、社会・人間事象を解析しうる十分な技能の修得をはかる。また、専門科目の共通として、心理学特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲをおき、心理関係の実務に携わる専門家等を講師として、課程修了後のキャリア形成に役立つ、幅広い実践的な教育を行う。

・心理基礎コースでは、知覚・認知心理学領域、教育・発達心理学領域、社会心理学領域の3領域を設け、それぞれの専門に応じた複数の講義・演習科目を配することで、幅広い専門的知識の習得を図る。

・心理臨床コースでは、実践家としての能力を高めるために、専門科目として、臨床心理学特講・臨床心理面接特講・病態心理学特講などの講義科目の他に、心理相談室およびこども相談室を中心とした実習科目を重視し、心理臨床家の養成を目指す。

4 教育の内容

- ・本専攻生は、個々の研究テーマに応じて、広範な専門領域（知覚・認知心理学領域、教育・発達心理学領域、社会心理学領域および臨床心理学領域）から、そして他専攻からも、履修科目を柔軟に選択することができるように配慮する。
- ・複数指導教員による指導体制で、研究計画の作成から論文の完成までの全過程に渡り、研究の進捗状況を確認しながらきめ細かい指導を行う。1年次には、心理学方法論と専門領域の知識を学び、2年次には、1学期に修士論文構想発表会、2学期に中間発表会、3学期に最終発表会・審査会を全教員参加のもとに公開形式で行う。これらの過程を通して、研究計画から論文作成までの全てのプロセスを遂行できる自立的研究能力を習得させる。
- ・心理臨床コースでは、上記(2)の研究指導に加えて、1年次に相談室を中心にケースの観察を通して実践的に学ぶ。2年次には相談室でケースを担当し、より実践的な学習を行う。

5 修了要件

必修科目を含む30単位以上を修得し、修士論文を提出して、論文審査及び最終試験に合格すること。

6 学位の名称

学位の名称は修士（心理学）とする。

(1) 心理専攻(前期課程)

① 専攻共通科目

専攻	分野	科目番号	授業科目	授業方法	単位	履修年次	開講学期	曜時限	教室	担当教員	備考
心理専攻		01EE001	心理学方法論Ⅰ	A	2	1	1	火2・3	人間A101	濱口佳和	必修
		01EE002	心理学方法論Ⅱ	A	2	1	2	火2・3	人間A101	濱口佳和	必修
		01EE003	心理学方法論Ⅲ	A	2	1	3	火2・3	人間A321	濱口佳和	必修
		01EE004	心理学特別研究	F	4	2	1~3	不定期		濱口佳和	必修
		01EE005	心理学特講Ⅰ	A	1	1・2		集中		()	非
		01EE006	心理学特講Ⅱ	A	1	1・2		集中		()	非
		01EE007	心理学特講Ⅲ	A	1	1・2		集中		()	非

② 専門科目

心理基礎コース

コース	分野	科目番号	授業科目	授業方法	単位	履修年次	開講学期	曜時限	教室	担当教員	備考
心理基礎コース	知覚・認知心理学	01EE101	感覚知覚心理学特講	A	2	1・2	2	木2・3	人間B335	綾部早穂	
		01EE102	感覚知覚心理学演習Ⅰ	B	2	1	1	水4・5	研究室	綾部早穂	
		01EE103	感覚知覚心理学演習Ⅱ	B	2	2	2	水4・5	研究室	綾部早穂	
		01EE104	認知心理学特講	A	2	1・2	3	木2・3	人間A321	原田悦子	
		01EE105	認知心理学演習Ⅰ	B	2	1	2	水4・5	研究室	原田悦子	
		01EE106	認知心理学演習Ⅱ	B	2	2	3	水4・5	研究室	原田悦子	
		01EE107	言語心理学特講	A	2	1・2	1	金2・3	人間A202	茂呂雄二	
		01EE108	言語心理学演習Ⅰ	B	2	1	1	水4・5	研究室	茂呂雄二	
		01EE109	言語心理学演習Ⅱ	B	2	2	3	水4・5	研究室	茂呂雄二	
心理基礎コース	教育・発達心理学	001EE201	教育心理学特講	A	2	1・2	1	金4・5	人間A321	外山美樹	
		01EE202	教育心理学演習Ⅰ	B	2	1	1	水4・5	研究室	外山美樹	
		01EE203	教育心理学演習Ⅱ	B	2	2	2	水4・5	研究室	外山美樹	
		01EE204	教育測定学特講	A	2	1・2	1	木4・5	人間A202	服部環	
		01EE205	教育測定学演習Ⅰ	B	2	1	2	水4・5	研究室	服部環	
		01EE206	教育測定学演習Ⅱ	B	2	2	3	水4・5	研究室	服部環	
		01EE207	児童心理学特講	A	2	1・2	2	火4・5	人間A321	櫻井茂男	
		01EE208	児童心理学演習Ⅰ	B	2	1	1	水4・5	研究室	櫻井茂男	
		01EE209	児童心理学演習Ⅱ	B	2	2	3	水4・5	研究室	櫻井茂男	
		01EE210	青年心理学特講	A	2	1・2	3	木4・5	人間A202	佐藤有耕	

コース	分野	科目番号	授業科目	授業方法	単位	履修年次	開講学期	曜時限	教室	担当教員	備考
心理 基礎 コース		01EE211	青年心理学演習Ⅰ	B	2	1	1	水4・5	研究室	佐藤 有耕	
		01EE212	青年心理学演習Ⅱ	B	2	2	2	水4・5	研究室	佐藤 有耕	
	社会心理学	01EE301	社会心理学特講	A	2	1・2	1	木2・3	人間A321	松井 豊	
		01EE302	社会心理学演習Ⅰ	B	2	1	2	水4・5	研究室	松井 豊	
		01EE303	社会心理学演習Ⅱ	B	2	2	3	水4・5	研究室	松井 豊	
		01EE304	集団心理学特講	A	2	1・2	2	木4・5	人間A202	吉田 富二雄	
		01EE305	集団心理学演習Ⅰ	B	2	1	1	水4・5	研究室	吉田 富二雄	
		01EE306	集団心理学演習Ⅱ	B	2	2	3	水4・5	研究室	吉田 富二雄	
		01EE307	臨床社会心理学特講	A	2	1・2	1	火4・5	人間A321	湯川 進太郎	
		01EE308	臨床社会心理学演習Ⅰ	B	2	1	2	水4・5	研究室	湯川 進太郎	
01EE309	臨床社会心理学演習Ⅱ	B	2	2	3	水4・5	研究室	湯川 進太郎			

心理臨床コース

コース	分野	科目番号	授業科目	授業方法	単位	履修年次	開講学期	曜時限	教室	担当教員	備考
心理臨床コース		01EE401	臨床心理学特講	A	4	1	1・2	木2・3	人間A202	小川 俊樹 濱口 佳和	必修
		01EE402	臨床心理面接特講	B	4	1	1・2	火4・5	人間A202	杉江 征 青木 佐奈枝 佐藤 純	必修
		01EE403	臨床心理基礎実習	C	3	1	1~3	木4・5及び不定期	D棟 公開講義室 D117・人間B301	小川 俊樹 濱口 佳和 青木 佐奈枝 佐藤 純	必修
		01EE404	臨床心理実習	C	3	2	1~3	木5及び不定期	人間B301	小川 俊樹 杉江 征 青木 佐奈枝 中込 四郎	必修*
		01EE405	発達臨床心理実習	C	3	2	1~3	木4及び不定期	D棟 公開講義室 D117	濱口 佳和 佐藤 純 庄司 一子	必修*
		01EE406	臨床心理査定演習Ⅰ	B	2	1	1	水1・2	人間B301	濱口 佳和 佐藤 純	必修
		01EE407	臨床心理査定演習Ⅱ	B	2	2	2	水1・2	人間B301	小川 俊樹 青木 佐奈枝 望月 聡	必修
		01EE408	健康心理学特講	A	2	1・2		集中		小玉 正博	
		01EE409	児童臨床心理学特講	A	2	1・2	1・2	火6	人間B335	濱口 佳和	
		01EE410	発達臨床心理学特講	A	2	1・2					本年度開講義せず
		01EE411	老年心理学特講	A	2	1・2		集中		大川 一郎	

コース	分野	科目番号	授 業 科 目	授業方法	単位	履修年次	開講学期	曜時限	教 室	担当教員	備考
心理臨床コース		01EE412	学 校 心 理 学 特 講	A	2	1・2	1	水1・2		石 隈 利 紀	本年度 開講せず
		01EE413	キャリアカウンセリング特講	A	2	1・2		集中		岡 田 昌 毅	
		01EE414	病 態 心 理 学 特 講	A	2	1・2		集中		{ 小 川 俊 樹	
		01EE415	アセスメント心理学特講	A	2	1・2		不定期		望 月 樹 聡	
		01EE417	心 理 臨 床 I	A	1	1・2		集中		小 川 俊 樹	
		01EE418	心 理 臨 床 II	A	1	1・2		集中			

(注) 開講学期が空白の集中科目は、開講日時が決定してから履修申請すること。開講日時等は後日掲示する。

必修*の01EE404と01EE405は、いずれかを選択必修のこと。

心理専攻（前期課程）

履 修 方 法

①心理基礎コース

- a. 課程修了に必要な単位は30単位とする。
- b. 専攻共通科目から10単位を履修する。
- c. 所属コースに開設される専門科目の中から、20単位以上履修する。
- d. 所属コース以外の専門科目、本研究科の他専攻、他研究科等で開設されている科目の中から、研究上必要とするものを10単位を限度に所属コースの専門科目として認定することができる。

②心理臨床コース

- a. 課程修了に必要な単位は30単位とする。
- b. 専攻共通科目から6単位以上を履修する。
- c. 所属コースに開設される専門科目の中から24単位以上履修する。
（「発達臨床心理実習」と「臨床心理実習」は、どちらか1科目を選択必修。）
- d. 所属コース以外の専門科目、本研究科の他専攻、他研究科等で開設されている科目の中から、研究上必要とするもの10単位を限度に専門科目として認定することができる。

(1) 心理専攻 (博士前期課程)

① 専攻共通科目

科目番号	授業科目	授業概要及び授業科目英訳	担当教員
01EE001	心理学方法論 I	心理的測定から解析に至る心理学の方法論 (心理学的測定・調査・実験・観察・相互作用分析など) を集中的に学び、社会・人間事象を解析しうる十分な技能の修得をはかる。 Methodologies on Psychology I	全教員
01EE002	心理学方法論 II	心理的測定から解析に至る心理学の方法論 (心理学的測定・調査・実験・観察・相互作用分析など) を集中的に学び、社会・人間事象を解析しうる十分な技能の修得をはかる。 Methodologies on Psychology II	全教員
01EE003	心理学方法論 III	心理的測定から解析に至る心理学の方法論 (心理学的測定・調査・実験・観察・相互作用分析など) を集中的に学び、臨床心理学領域に関して社会・人間事象を解析しうる十分な技能の修得をはかる。 Methodologies on Psychology III	全教員
01EE004	心理学特別研究	修士論文作成のための科目である。特定テーマを選び、関連する問題領域のレビューを行い、修得した心理学方法論に基づき調査・実験などを行い、論文としてまとめて研究基礎能力の修得をはかる。 Basic Research in Psychology	全教員
01EE005	心理学特講 I	心理学の最近の特殊テーマについて講義する。 Current Issues in Psychology I	()
01EE006	心理学特講 II	心理学の最近の特殊テーマについて講義する。 Current Issues in Psychology II	()
01EE007	心理学特講 III	心理学の最近の特殊テーマについて講義する。 Current Issues in Psychology III	()

② 専攻科目

科目番号	授業科目	授業概要及び授業科目英訳	担当教員
心理基礎コース(知覚・認知心理学分野)			
01EE101	感覚知覚心理学特講	情報処理論的アプローチに基づき、感覚、選択、記憶、解釈、反応に関する基本情報処理過程を探る。関連する最新文献を取り上げて、討論を行うことにより人間の情報処理の働きの理解を深める。 Lecture on Sensation and Perception	綾部 早穂
01EE102	感覚知覚心理学演習 I	指導学生の修士論文作成を支援するための演習である。テーマ決定から研究方法、論文作成の指導まで、研究者としての自律的な活動を支援する。 Seminar in Sensation and Perception I	綾部 早穂
01EE103	感覚知覚心理学演習 II	指導学生の修士論文作成を支援するための演習である。テーマ決定から研究方法、論文作成の指導まで、研究者としての自律的な活動を支援する。 Seminar in Sensation and Perception II	綾部 早穂
01EE104	認知心理学特講	認知心理学研究の文献をレビューしながら、認知心理学における考え方の枠組・前提、問題のとらえ方の特徴と詳細化、研究方法とその分析、得られた結果からの展開の仕方について検討する。 Lecture on Cognitive Psychology	原田 悦子
01EE105	認知心理学演習 I	認知心理学を専攻する指導学生の修士論文作成を支援するための演習である。テーマ決定から研究方法、論文作成の指導まで、研究者としての自律的な活動を支援する。 Seminar in Cognitive Psychology I	原田 悦子
01EE106	認知心理学演習 II	認知心理学を専攻する指導学生の修士論文作成を支援するための演習である。テーマ決定から研究方法、論文作成の指導まで、研究者としての自律的な活動を支援する。 Seminar in Cognitive Psychology II	原田 悦子
01EE107	言語心理学特講	言語心理学の最近の成果を幅広く取り上げて議論する。特に談話分析、会話分析、言説分析の研究成果とそのメタ理論、研究方法について講義する。 Lecture on Psychology of Language	茂呂 雄二
01EE108	言語心理学演習 I	言語心理学を専攻する指導学生の修士論文の作成を支援するために開設されるものである。テーマの決定・研究方法・論文作成の指導、および研究者としての自律的な活動の支援をする。 Seminar on Psychology of Language I	茂呂 雄二
01EE109	言語心理学演習 II	言語心理学を専攻する指導学生の修士論文の作成を支援するために開設されるものである。テーマの決定・研究方法・論文作成の指導、および研究者としての自律的な活動の支援をする。 Seminar on Psychology of Language II	茂呂 雄二

心理基礎コース（教育・発達心理学分野）			
001EE201	教育心理学特講	教育心理学分野の最近の重要なトピックをレビューし、教育心理学に関する理解を深める。 Lecture on Educational Psychology	外山 美樹
001EE202	教育心理学演習 I	教育心理学を専攻する指導学生の修士論文の作成を支援するために開設される演習である。テーマの決定・研究方法・分析方法・論文作成の指導、および研究者としての自律的な活動の支援をする。 Seminar in Educational Psychology I	外山 美樹
001EE203	教育心理学演習 II	教育心理学を専攻する指導学生の修士論文の作成を支援するために開設される演習である。テーマの決定・研究方法・分析方法・論文作成の指導、および研究者としての自律的な活動の支援をする。 Seminar in Educational Psychology II	外山 美樹
001EE204	教育測定学特講	教育・研究活動における諸測定場面を念頭に置き、教育統計学、古典的テスト理論、項目反応理論、構造方程式モデリング、マルチレベルモデリング等について学び、理解を深める。 Lecture on Educational Measurement	服部 環
001EE205	教育測定学演習 I	教育測定学を専攻する指導学生の修士論文の作成を支援するために開設される演習である。テーマ決定から研究方法、さらには、論文作成の指導まで、研究者としての自立的な活動を支援する。 Seminar in Educational Measurement I	服部 環
001EE206	教育測定学演習 II	教育測定学を専攻する指導学生の修士論文の作成を支援するために開設される演習である。テーマ決定から研究方法、さらには、論文作成の指導まで、研究者としての自立的な活動を支援する。 Seminar in Educational Measurement II	服部 環
001EE207	児童心理学特講	児童心理学についての新しい研究成果を紹介したり、レポートしてもらったりして、理解を深める。とくに、動機づけの問題については詳しく検討する。 Lecture on Child Psychology	櫻井 茂男
001EE208	児童心理学演習 I	児童心理学を専攻する指導学生のために修士論文作成を支援する演習である。 Seminar in Child Psychology I	櫻井 茂男
001EE209	児童心理学演習 II	児童心理学を専攻する指導学生のために修士論文作成を支援する演習である。 Seminar in Child Psychology II	櫻井 茂男
001EE210	青年心理学特講	青年心理学に関する重要な文献を教材として、青年心理学に関する知見を深める。 Lecture on Adolescent Psychology	佐藤 有耕
001EE211	青年心理学演習 I	青年心理学を専攻する指導学生の論文作成指導のために開設する演習である。各自の問題意識を明確にし、テーマの決定、研究方法の検討、論文作成の指導など、研究者としての自律的な活動を実現するまでの演習指導を行う。 Seminar in Adolescent Psychology I	佐藤 有耕
001EE212	青年心理学演習 II	青年心理学を専攻する指導学生の論文作成指導のために開設する演習である。各自の問題意識を明確にし、テーマの決定、研究方法の検討、論文作成の指導など、研究者としての自律的な活動を実現するまでの演習指導を行う。 Seminar in Adolescent Psychology II	佐藤 有耕
心理基礎コース（社会心理学分野）			
01EE301	社会心理学特講	社会心理学の研究に関わる技法修得を目的として、講義と演習を合わせたスキルトレーニングを行う。 Lecture on Social Psychology	松井 豊
01EE302	社会心理学演習 I	社会心理学を専攻する指導学生の修士論文の作成を支援するために開設される演習である。 Seminar in Social Psychology I	松井 豊
01EE303	社会心理学演習 II	社会心理学を専攻する指導学生の修士論文の作成を支援するために開設される演習である。 Seminar in Social Psychology II	松井 豊
01EE304	集団心理学特講	集団心理学にかかわる最近の研究を議論する。特に、関下単純接触効果、潜在態度測定、Internet 行動など主なテーマとして検討する。 Lecture on Group Psychology II	吉田富二雄
01EE305	集団心理学演習 I	集団心理学を専攻する指導学生の修士論文の作成を支援するための演習である。テーマ決定から研究方法、さらには、論文作成の指導まで、研究者としての自律的な活動を支援することまでを兼ねて開設される。 Seminar in Group Psychology I	吉田富二雄
01EE306	集団心理学演習 II	集団心理学を専攻する指導学生の修士論文の作成を支援するための演習である。テーマ決定から研究方法、さらには、論文作成の指導まで、研究者としての自律的な活動を支援することまでを兼ねて開設される。 Seminar in Group Psychology II	吉田富二雄

01EE307	臨床社会心理学特講	臨床社会心理学に関わるテーマについて、最近の研究論文をもとに議論する。 ----- Lecture on Clinical Social Psychology	湯川進太郎
01EE308	臨床社会心理学演習Ⅰ	臨床社会心理学を専攻する指導学生の修士論文の作成を支援するための演習である。 ----- Seminar in Clinical Social Psychology I	湯川進太郎
01EE309	臨床社会心理学演習Ⅱ	臨床社会心理学を専攻する指導学生の修士論文の作成を支援するための演習である。 ----- Seminar in Clinical Social Psychology II	湯川進太郎
心理臨床コース			
01EE401	臨床心理学特講	臨床心理学の基礎知識を学ぶ。すなわち、臨床心理学の存在理由、諸基礎理論、心理アセスメント介入技法、および臨床心理学の社会的役割等を概説する。 ----- Lecture on Clinical Psychology	小川 俊樹 濱口 佳和
01EE402	臨床心理面接特講	臨床心理学的介入、援助の技法を学ぶ。理論のみならず、実習の要素も含む。1学期は心理臨床における面接法の基本的な事柄を中心に行う。2学期は、心理診断面接の基本的な事柄を中心に行う。 ----- Lecture on Psychotherapy	杉江 征 青木佐奈枝 佐藤 純
01EE403	臨床心理基礎実習	心理的問題を抱えた学外者に有料で相談に応じている心理相談室を用いて実習を行う。教員のインテークに同席し、またインテークカンファレンスに出席してケースを臨床心理学的に見立てる力を養う。1年次の必修科目。 ----- Practice in Clinical Psychology : Basic	小川 俊樹 杉江 征 濱口 佳和 青木佐奈枝 佐藤 純 中込 四郎
01EE404	臨床心理実習	心理的問題を抱えた学外者に有料で相談に応じている心理相談室を用いて実習を行う。実習ではケースを直接担当し、心理療法を行うのに必要な技能の習得に努める。2年次の必修科目。 ----- Practice in Clinical Psychology	小川 俊樹 杉江 征 青木佐奈枝 中込 四郎
01EE405	発達臨床心理実習	教員のスーパーヴィジョンの下に、幼児・自動・青年を対象とした心理学的治療を、親を対象とした心理相談を実施するなかで、技法と理論の学習を深める。 ----- Practice in Developmental Clinical Psychology	濱口 佳和 佐藤 純 庄司 一子
01EE406	臨床心理査定演習Ⅰ	臨床心理学の研究法で、同時に実地臨床での技術でもある心理学的査定の手法について学ぶ。演習のⅠでは観察法、発達検査、知能検査などを中心に、理論的に学習するとともに、実習を通じて査定技術の修得も目指す。 ----- Seminar in Psychological Assessment I	濱口 佳和 佐藤 純
01EE407	臨床心理査定演習Ⅱ	主として人格検査および神経心理学的検査を扱う。質問紙法、投影法及び作業検査法について理論的に考察すると共に、代表的な各種検査についての実習を取り入れ、査定技術の学習もねらいとする。 ----- Seminar in Psychological Assessment II	青木佐奈枝 杉江 征 望月 聡
01EE408	健康心理学特講	健康心理学関連文献を購読しながら、当該領域の基本的な理論・研究法及び最新の研究成果などについて理解を深める。授業は、資料に基づいての討論を中心に行う。受講者は課題を決めて発表を求められる。 ----- Lecture on Health Psychology	小玉 正博
01EE409	児童臨床心理学特講	幼児期から思春期ごろまでの子供の問題行動と対処方法などについて、内外の関連文献の精読と討論により、理解を深める。 ----- Lecture on Clinical Child Psychology	濱口 佳和
01EE410	発達臨床心理学特講	発達臨床心理学にかかわる幼児・児童の問題事例の動向とその研究やケアの問題点を検討する。 ----- Lecture on Developmental Clinical Psychology	
01EE411	老年心理学特講	老年期の心理について幅広く講義する。特に老人性痴呆について詳説するが、生きがい・認知学習能力・性とセクシャリティ・災害と高齢者・高齢者虐待・死と死にがい、などの今日の問題について検討する。 ----- Lecture on Psychogerontology	大川 一郎
01EE412	学校心理学特講	学校心理学の理論と実践について講義する。とくに、日本における学校心理学の実践モデル、スクールカウンセラーの役割、アセスメント・カウンセリング・コンサルテーションを扱う。 ----- Lecture on School Psychology	石隈 利紀
01EE413	キャリアカウンセリング特講	現代人にとって避けることのできない課題として、「働くことはいかに取り組むか」、「働くことの私的意味」があるという仮定に立って「働くこと」を生涯発達のかつ臨床的に理解を深めることをめざす。 ----- Lecture on Career Counseling	岡田 昌毅
01EE414	病態心理学特講	実験や調査等と同様に、病理法は心理学研究法の一つと考えることができる。本講では、さまざまな心的機能について、主として2つの病理的な方向から考察していく。今年度は、「記憶」に関して、臨床心理学的視点からと神経心理学的視点から検討する。 ----- Lecture on Pathological Psychology	小川 俊樹 望月 聡

01EE415	アセスメント心理学特講	心理臨床家の業務である心理アセスメントに関して、種々のアセスメント技法を習熟するとともに、内外の関係文献の講読を通して最新の知見に触れる。 ----- Lecture on Assessment Psychology	小川 俊樹
01EE417	心理臨床 I	心理臨床のアセスメントについての特別な理論や技法を学ぶ。 ----- Clinical Psychology I	()
01EE418	心理臨床 II	心理臨床の面接や心理療法についての特別な理論や技法について学ぶ。 ----- Clinical Psychology II	()

心理学方法論 I (01EE001)

(Methodologies on Psychology I)

授業形態 : 講義

担当教員 : 濱口佳和, 吉田富二雄, 湯川進太郎,
佐藤有耕, 櫻井茂男, 茂呂雄二

授業時間 : 1 学期 火曜日 第 2・3 時限

研究室 : 人間系学系棟 A308 他

教室 : 人間 A101

単位数 : 2 単位

オフィスアワー : 教員により異なる

履修年次 : 1 年

教育目標との関連 : 「②心理学的方法論を駆使して問題を実証的に分析する能力の養成」に関連

授業の到達目標 : 心理的測定から解析に至る心理学の方法論 (心理学的測定・調査・実験・観察・相互作用分析など) を集中的に学び、社会・人間事象を解析しうる十分な技能の修得をはかる。

授業概要 : 主に心理学の基礎的方法論を取り上げ検討する。

評価方法 : 出席と試験。

教科書 : 特に使用しない。

参考図書 : そのつど指示をする。

授業外における学習の方法 : 関連する研究論文を講読すること。

受講生に望むこと : 研究のアイデアを豊かにすること。

授業計画 (各週毎授業計画)

- ① 4 月 13 日…吉田富二雄 : オリエンテーション (人間行動の測定について)
測定指標、相関係数から相関分析へ
- ② 4 月 20 日…吉田富二雄 : 心理尺度の構成 (尺度の信頼性と妥当性)
- ③ 5 月 11 日…湯川進太郎 : 実験計画法① 概要とポイントの解説
- ④ 5 月 18 日…湯川進太郎 : 実験計画法② 具体的な研究例を用いて
- ⑤ 5 月 25 日…佐藤有耕 : 青年心理学研究の方法論①青年心理学的な研究とは何か
- ⑥ 6 月 1 日…佐藤有耕 : 青年心理学研究の方法論②青年心理学の研究の具体例
- ⑦ 6 月 8 日…櫻井茂男 : 幼児を対象とした調査について : 面接を用いた調査など
- ⑧ 6 月 15 日…櫻井茂男 : 児童を対象とした調査について : 簡単な質問紙など
- ⑨ 6 月 22 日…茂呂雄二 : 言語分析の手法 (定量的分析 : アイディアユニット、文の複雑さ、文間の接続の分類など)
- ⑩ 6 月 29 日…茂呂雄二 : 談話分析の手法 (定性的な分析 : GTA、内容分析、相互行為分析、言説分析など)

心理学方法論Ⅱ (01EE002)

(Methodologies on PsychologyⅡ)

授業形態：講義

担当教員：濱口佳和，松井 豊，綾部早穂，
外山美樹，服部 環，原田悦子

授業時間：2学期 火曜日 第2・3時限

研究室：人間系学系棟 A312 他

教室：人間 A101

単位数：2単位

オフィスアワー：教員により異なる

履修年次：1年

教育目標との関連：「②心理学的方法論を駆使して問題を実証的に分析する能力の養成」に関連

授業の到達目標：心理的測定から解析に至る心理学の方法論（心理学的測定・調査・実験・観察・相互作用分析など）を集中的に学び、社会・人間事象を解析しうる十分な技能の修得をはかる。

授業概要：主に心理学の基礎的方法論を取り上げ検討する。

評価方法：出席と試験。

教科書：特に使用しない。

参考図書：そのつど指示をする。

授業外における学習の方法：関連する研究論文を講読すること

受講生に望むこと：研究のアイデアを豊かにすること

授業計画（各週毎授業計画）

- ① 9月 7日…松井 豊：因子分析 … 因子分析の基本的手順を説明し，因子の命名に関する実習を行う。
- ② 9月14日…松井 豊：数量化Ⅲ類 … 数量化Ⅲ類（双対尺度法を含む）の基本的な手順を説明し，調査における利用方法を詳細に解説する。
- ③ 10月 5日…綾部早穂：ニューロイメージング手法を用いた研究論文の眺め方
- ④ 10月12日…綾部早穂：実験の外的・内的妥当性について
- ⑤ 10月14日…外山美樹：パネル調査（1）（パネル調査（縦断研究）を取りあげ，調査研究において因果関係を検討する方法について紹介する。）
- ⑥ 10月19日…外山美樹：パネル調査（2）（パネル調査（縦断研究）を取りあげ，調査研究において因果関係を検討する方法について紹介する。）
- ⑦ 10月26日…服部 環：構造方程式モデリング（フリーソフト R を用いて構造方程式モデリングについて学ぶ。）
- ⑧ 11月 2日…服部 環：検定力分析（フリーソフト R を用いて統計的検定力について学ぶ。）
- ⑨ 11月 9日…原田悦子：人—人工物間相互作用分析における言語プロトコル研究の方法
- ⑩ 11月16日…原田悦子：高齢者を対象とした研究の意義と方法

心理学方法論Ⅲ (01EE003)

(Methodologies on PsychologyⅢ)

授業形態：講義

担当教員：望月 聡，濱口佳和，小川俊樹，
佐藤 純，青木佐奈枝

授業時間：3学期 火曜日 第2・3時限

研究室：総合研究D棟706他

教室：人間A321

単位数：2単位

オフィスアワー：教員により異なる

履修年次：1年

教育目標との関連：「②心理学的方法論を駆使して問題を実証的に分析する能力の養成」に関連

授業の到達目標：心理臨床のさまざまな方法論について学び自分の研究計画に生かせること。

授業概要：主に心理臨床の方法論を取り上げ検討する。

評価方法：出席と試験。

教科書：特に使用しない。

参考図書：そのつど指示をする。

授業外における学習の方法：関連する研究発表物にあたること。

受講生に望むこと：研究のアイデアを豊かにすること。

授業計画（各週毎授業計画）

- ① 12月 7日…望月 聡：神経心理学的検査、認知リハビリテーション
- ② 12月14日…望月 聡：神経心理学的検査、認知リハビリテーション
- ③ 12月21日…濱口佳和：多様な単一事例実験計画法
- ④ 1月11日…濱口佳和：多様な単一事例実験計画法
- ⑤ 1月25日…青木佐奈枝：見立てと支援、心理査定の臨床活用
- ⑥ 2月 1日…青木佐奈枝：見立てと支援、心理査定の臨床活用
- ⑦ 2月 8日…小川俊樹：事例研究、病態心理学、ケースを読むこと
- ⑧ 2月15日…小川俊樹：事例研究、病態心理学、ケースを読むこと
- ⑨ 2月22日…佐藤純：心理臨床における倫理について
- ⑩ 3月 1日…試験

心理学特別研究 (01EE004)

(Basic Research in Psychology)

授業形態：演習と実習・実験

担当教員：濱口佳和他

心理専攻全教員

授業時間：1～3学期 不定期

研究室：人間系学系棟 B326

教室：各教員の研究室

単位数：4単位

オフィスアワー：火曜日 18:00～18:30

履修年次：1・2年

教育目標との関連：「①広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」ならびに「②心理学的方法論を駆使して問題を実証的に分析する能力の養成」に関連

授業の到達目標：各自の修士論文の研究テーマについて幅広く文献をレビューし、その上で未解決の問題を取り上げ、綿密な研究計画を立案し、習得した心理学的方法論を使用し、的確なデータの収集と分析を行い、実証的な研究としてまとめる能力を身につけること

授業概要：各教員がそれぞれの指導学生に個別に示す

評価方法：同上

教科書：特に使用しない。

参考図書：そのつど指示をする。

授業外における学習の方法：関連する研究論文を講読すること。学会・研究会などで専門家に意見を聴く

受講生に望むこと：学術雑誌に掲載されるレベルの研究を目指すこと

授業計画（各週毎授業計画）

詳細は各指導教員がそれぞれの院生に個別に示す。

感覚知覚心理学特講 (01EE101)

(Lecture on sensation and perception)

授業形態：講義

授業時間：2学期 木曜日 第2・3時限

教室：人間 B335

単位数：2単位

履修年次：1・2年

担当教員：綾部早穂

研究室：人間系学系棟 B304 TEL:853-4613

オフィスアワー：火曜日 15:30～17:30

教育目標との関連：「①広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」に関連

授業の到達目標：情報処理論的アプローチの理解

授業概要：情報処理論的アプローチに基づき、感覚、選択、記憶、解釈、反応に関する基本的情報処理過程を探る。今年度は特に「注意の瞬き」現象をとりあげ、最新のデータと解釈に関して理解を深め、討論を行うことにより人間の情報処理の働きの理解を深める。

評価方法：授業への出席と授業への関与の度合いを総合的に判断する。

教科書：

参考図書：

授業外における学習の方法：参考図書や文献の講読

受講生に望むこと：自主的な学習，幅広い知識の獲得

授業計画（各週毎授業計画）

平成22年度は、P. E. Dux & R. Marois のレビュー論文 “The attentional blink: A review of data and theory” を読みすすめながら、どのような研究手法で、何が明らかにされたのかを、オリジナルの研究論文を参照しながら確認し、理解していく。並行して、この領域における方法論（実験用プログラムの使用）についても学習する。

1. オリエンテーション
2. ～ 7. 研究論文のレビュー（どのような研究手法で、何が明らかにされたのかを中心に。）
8. 感覚知覚心理学研究における方法論について考える
9. 特定のテーマに対して実際に実験計画を立て、期待される結果について考える。
10. 特定のテーマに対して実際に実験計画を立て、期待される結果について考える。

認知心理学特講 (02EC005)

(Lecture on Cognitive Psychology)

授業形態：講義

担当教員：原田悦子

授業時間：3学期 木曜日 第2・3時限

研究室：人間系学系棟 A342 TEL:853-4717

教室：人間 A321

単位数：2単位

オフィスアワー：火曜日 15:30～17:30

履修年次：1・2年

教育目標との関連：「①広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」に関連

授業の到達目標：認知心理学研究の問題設定/現状/方法論/限界の理解・習得を目標とする。

授業概要：認知心理学研究の文献をレビューしながら、認知心理学における考え方の枠組・前提、問題のとらえ方の特徴と詳細化、研究方法とその分析、得られた結果からの展開の仕方について検討する。

評価方法：出席を前提とし、発表(50%)ならびに討論への参加(50%)を総合的に評価する。

教科書：F. I. M. Craik & T. A. Salthouse (eds.) The Handbook of Aging and Cognition, 3rd Edition 2007, Psychology Press ならびに Hofer, S. M. & Alwin, D. F. (eds) Handbook of Cognitive Aging: Interdisciplinary Perspectives. 2008, Sage Publications, Inc.

参考図書：随時指定する。

授業外における学習の方法：教材に関する関係資料を主体的に探し、理解してこること。

受講生に望むこと：先行研究を critical に読むことは研究活動の基本です。そうした読み方に現れる特徴として、認知心理学を体得していきましょう。

授業計画 (各週毎授業計画)

2冊のテキストについて、参加者の興味と全体のバランスを考えながら、いくつかの章を選択し、参加者全員で読み進めていく。各章の担当者は、論文自体の梗概をまとめつつ、議論を誘導すべく、各種資料を提供すること。出席者も必ず、その論文を読んできた上で、批判的に読むという形での議論に参加すること。

- 1 オリエンテーション：授業の方法の説明、ならびに各人の興味に合わせた分担決定
- 2～9 テキスト各章の報告と議論(1回に1章をおおよその目安として)
10. 認知心理学とその他の学問領域の違いと類似点について議論を行う。

言語心理学特講 (01EE107)

(Lecture on Psychology of Language)

授業形態：講義

担当教員：茂呂雄二

授業時間：1学期 火曜日 第4・5時限

研究室：人間系学系棟 A346 TEL:853-4615

教室：人間 A202

単位数：2単位

オフィスアワー：木曜日昼休み

履修年次：1・2年

教育目標との関連：「①広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」に関連

授業の到達目標：言語心理学の現状を理解する。

授業概要：言語の心理にかかわる研究を、とくに学習科学の動向とあわせて紹介する。学習科学では、人の学びにおける、概念的な変化を明らかにするために、学習の成否をはかる上でも、また学習者への効果的な介入のあり方を評価するためにも、言語データとくに談話・会話データに依拠することが多い。学習科学の成立過程と動向を整理した上で、実際の研究を吟味しながら、談話・会話分析的手法を紹介する。

評価方法：出席およびレポート

教科書：指定しない

参考図書：茂呂雄二『人はなぜ書くのか』東京大学出版会

茂呂雄二（編）『対話と知』新曜社

茂呂雄二（編）『実践のエスノグラフィー』金子書房

授業外における学習の方法：課題図書の見直し

受講生に望むこと：幅広い考え方の吸収

授業計画（各週毎授業計画）

- 1 導入：学習をめぐる最近
- 2 学習科学①：認知科学、コンピュータサイエンスにおける学習研究
- 3 学習科学②：状況的学習論
- 4 学習科学③：ワークプレイス研究
- 5 談話の科学①：会話の分析
- 6 談話の科学②：語りの内容分析
- 7 談話の科学③：言説の分析
- 8 学習過程の分析：談話および言説の内容分析の実際
- 9 学習過程への介入：理科における介入的研究の実際
- 10 学習過程の組織化：コミュニティーの学習過程分析の実際

教育心理学特講 (01EE201)

(Lecture on Educational Psychology)

授業形態：講義(演習形態を含む)

担当教員：外山美樹

授業時間：1学期 金曜日 第4・5時限

研究室：人間系学系棟 A345 TEL:853-4614

教室：人間 A321

単位数：2単位

オフィスアワー：火曜日 15:30～17:30

履修年次：1・2年

教育目標との関連：「①広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」に関連

授業の到達目標：教育心理学的研究の実践方法を習得させることを目標とする。特に、様々な研究方法や分析方法を獲得することを主要な目的とする。

授業概要：教育心理学分野の最近の重要なトピックをレビューし、教育心理学研究に関する理解を深める。具体的には、教育心理学のテーマに関する論文(英文を含む)や専門書を担当受講生が発表し、そのテーマについて受講者全員で討論する。今年度は、動機づけと感情における最新の論文が収集された雑誌である“Current directions in motivation and emotion”(Sheldeon, K.M.(編), 2009)を受講生が分担して読んでいく。

評価方法：出席状況, レポート(発表内容), 討論参加の程度によって総合的に判断する。

教科書：未定

参考図書：授業中に紹介する。

授業外における学習の方法：常日頃、様々な文献に目を通してください。

受講生に望むこと：積極的な授業参加を望みます。

授業計画(各週毎授業計画)

下記の論文の中から、受講生が興味のある論文を選び発表する。

1. New directions in goal-setting theory.
2. The strength model of self-control.
3. The perils of perfectionism in sports and exercise.
4. Contingencies of self-worth.
5. Adaptation and the set-point model of subjective well-being: Does happiness change after major life events?
6. Children of the affluent: Challenges to well-being.
7. Unconscious emotion.
8. Sources of implicit attitudes.
9. The malicious serpent: Snakes as a prototypical stimulus.
10. Positive affect and health.
11. Emerging insights into the nature and function of pride.
12. Implicit egotism.
13. Merely activating the concept of money changes personal.
14. Antecedents and consequences of system-justifying.
15. An adaptation for altruism?: The social causes, social effects, and social evolution of gratitude.
16. Interest-The curious emotion.
17. The science of emotional intelligence.
18. Universals and cultural differences in recognizing.
19. Affective forecasting: Knowing what to want.
20. Adaptations to ovulation: Implications for sexual and social behavior.

など

教育測定学特講 (01EE204)

(Seminar in Educational Measurement)

授業形態：講義

授業時間：1学期 木曜日 第4・5時限

教室：人間A202

単位数：2単位

履修年次：1・2年

担当教員：服部 環

研究室：人間系学系棟B302

オフィスアワー：木曜日 10:10~11:25

教育目標との関連：「②心理学的的方法論を駆使して問題を実証的に分析する能力の養成」に関連

授業の到達目標：心理学の研究において利用されている統計解析技法の多様性を知り、その使われ方と理念を理解した上で、解析結果を解釈できる。

授業概要：心理学の研究には基本的な心理統計技法の習得はもちろんのこと、多変量データ解析や計量心理学的技法の習得が必要となる。本講義では心理統計学をベースにして多変量データ解析や計量心理学的技法を学ぶ。技法の習得・利用にはコンピュータソフトウェアが必要であるから、適宜、ソフトウェアを紹介する。授業では、まず心理学の研究に利用されている統計解析技法を書籍・研究論文を通して概観し、続いて主要な心理統計技法に焦点を絞る予定である。受講者には文献講読・報告を課す。

評価方法：出席およびレポートによる。

資料：随時配布する。

参考図書：

- (1)足立浩平 (2006). 多変量データ解析法—心理・教育・社会系のための入門— ナカニシヤ出版
- (2)Everitt, B.著 石田基広・石田和枝・掛井秀一訳 (2007). R と S-PLUS による多変量解析 シュプリンガー・ジャパン
- (3)Fox, J. (2006). Structural Equation Modeling With the sem Package in R. Structural Equation Modeling, 13, 465-486.
- (4)Kreft, I. & de Leeuw, J.著 小野寺孝義・菱村 豊・村山 航・岩田 昇・長谷川孝治訳 (2006). 基礎から学ぶマルチレベルモデル—入り組んだ文脈から新たな理論を創出するための統計手法

授業外における学習の方法：書籍論文等を通して積極的に統計解析技法を学ぶ。

受講生に望むこと：論文講読を行った際に未学習の統計解析技法や統計量に出会ったときは、積極的にそうした統計解析技法や統計量を調べ、授業時に紹介して欲しい。

授業計画 (各週毎授業計画)

1. 導入
2. 内外の書籍・研究論文の講読-1
3. 内外の書籍・研究論文の講読-2
4. 内外の書籍・研究論文の講読-3
5. 内外の書籍・研究論文の講読-4
6. 内外の書籍・研究論文の講読-5
7. 内外の書籍・研究論文の講読-6
8. 内外の書籍・研究論文の講読-7
9. 内外の書籍・研究論文の講読-8
10. 内外の書籍・研究論文の講読-9

以上。

青年心理学特講 (001EE210)

(Lecture on Adolescent Psychology)

授業形態：講義

授業時間：3学期 木曜日 第4・5時限

教室：人間A202

単位数：2単位

履修年次：1・2年

担当教員：佐藤有耕

研究室：人間系学系棟A344 TEL:853-4695

オフィスアワー：火曜日 11:40～12:00

<E-mail:yuhkohst@human.tsukuba.ac.jp>

教育目標との関連：「①広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」に関連

授業の到達目標：授業で取り上げる内容を通して、青年心理学研究の現状と課題を理解し、青年の心理を理解する多様な観点を身につけること。例えば、青年を対象としてとらえ、外から青年を理解しようとする立場と、青年の側に立って青年を理解しようとする立場(落合, 2002)の違いを知ること。青年性・世代性・個別性という問題設定の観点(西平, 1988)を理解すること。一つの現象を対自的側面・対他的側面・時間的展望の側面を含む全体としてとらえること(落合, 1995)。

授業概要：青年心理学に関する重要な文献を教材として、青年心理学に関する知見を深める。文献には、青年心理学の古典、体系的なテキスト、学位論文などの重厚な研究、レビュー論文、最新の学会誌論文、隣接する学問領域の文献などを含める。学類の講義とは違い、少人数で実施し、発表や討論などを活発に行う学生参加型の授業とする予定である。

評価方法：授業に参加して、討議や発表や質疑応答など、受講生としての責任を果たした場合に単位の認定を行う。テストは行わない。

教科書：未定

参考図書：①西平直喜・久世敏雄(編) 『青年心理学ハンドブック』 東京:福村出版, 1988

②久世敏雄・齋藤耕二(監修) 『青年心理学事典』 東京:福村出版, 2000

③加藤隆勝・高木秀明(編) 『青年心理学概論』 東京:誠信書房, 1997

授業外における学習の方法：授業に関連する内容について、受講生各自が積極的に学習を深めておくことが求められる。

受講生に望むこと：専門の如何にかかわらず、この授業を通して青年心理学の知見を学び、各自の研究活動に役立てること。

授業計画 (各週毎授業計画)

0. オリエンテーション

1. 青年心理学の概要

2. わが国の青年心理学の動向

3. 青年心理学の重要文献の検討～

具体的な内容に関しては、受講生との顔合わせの後に、年度ごとに検討して確定していく

児童心理学特講 (01EE207)

(Lecture on Child Psychology)

授業形態：講義(演習形態を含む)

授業時間：2学期 火曜日 第4・5時限

教室：人間A321

単位数：2単位

履修年次：1・2年

担当教員：櫻井茂男

研究室：人間系学系棟A412

オフィスアワー：水曜日 10:00～11:30

教育目標との関連：「①広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」に関連

授業の到達目標：児童期の「動機づけ」について理解する。

授業概要：児童心理学についての新しい研究成果を紹介したり、レポートしてもらったりして、児童期の心理について理解を深める。今年度はおもに「動機づけ」についての書物 (Handbook of Approach and Avoidance Motivation, Andrew J. Elliot(Ed.)) を読み、討論する。

評価方法：レポート、討論参加の程度、出席状況によって行う。

教科書：授業中に配布する。

参考図書：授業中に紹介する。

授業外における学習の方法：できるだけ教科書の英文に目を通すこと。

受講生に望むこと：心理学の英文を読みレポートをしてもらうため、英語が得意であること。

授業計画 (各週毎授業計画)

1・2 オリエンテーション

3～18 動機づけに関する上記の本をレポートしてもらい、討論する。

19・20 まとめ

社会心理学特講 (01EE301)

(Lecture on Interpersonal Social Psychology)

授業形態：講義

授業時間：1学期 木曜日 第2・3時限

教室：人間A321

単位数：2単位

履修年次：1・2年

担当教員：松井 豊

研究室：人間系学系棟A312 TEL:853-6779

オフィスアワー：木曜日 11:35~12:25

教育目標との関連：「②心理学的方法論を駆使して問題を実証的に分析する能力の養成」に関連

授業の到達目標：社会心理学や非験系の心理学に関する研究職を目指す大学院生のために、論文作成に必要なスキルを高めることを目的とする。

授業概要：社会心理学の下記にあげる研究技法を、講義と実習を通して説明する。

評価方法：出席と課題提出。

教科書：指定しない。

参考図書：講義中に紹介する。

授業外における学習の方法：課題を完成させるために、演習時間外に必要な作業を行う。

受講生に望むこと：適切な講義環境を保つために、受講制限を行う。制限条件は初回講義開始時に説明する。初回欠席者は受講できない。初回講義時に、研究業績の一覧（卒論・修論は要約、学会発表や学会誌はコピー）を持参すること。なお、修論生も別扱いにしないので、修論生の受講は勧めない。

授業計画

初回に受講生の業績内容を検討し、下記のテーマの中から必要と考えられるものを順に行う。

- a. 文献の収集法・整理法
図書館・書店情報・インターネットを用いた情報検索・2次情報源・PsycINFO
文献のメタ分析
- b. 要因図を用いた問題の整理
- c. 質問票の作成テクニック
- d. データ処理に技術 …多変量解析の使い方
統計のウソ
多変量解析の基礎・クラスター分析・主成分分析
因子分析
数量化Ⅲ類
重回帰分析・パス解析
- e. フィールド調査の実施上の注意
- f. 学会発表におけるプレゼンテーションの技術
学会発表の予行練習
- g. 各学会誌の文体
学会誌の文体を分析する
- h. 「心理学」教師としてのテクニック
心理学の模擬講義を行う
- i. パワーポイントを使う
パワーポイントを用いてプレゼンをする
- j. 文献批判の視点

集団心理学特講 (01EE305)

(Lecture on Group Psychology)

授業形態：講義

授業時間：2学期 木曜日 第4・5時限

教室：人間A202

単位数：2単位

履修年次：1・2年

担当教員：吉田富二雄

研究室：人間系学系棟A308

オフィスアワー：木曜日 13:00～14:00

〈E-mail: fyoshida@human.tsukuba.ac.jp〉

教育目標との関連：「①広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」に関連

授業の到達目標：専門的基礎知識、思考様式に触れることによって、集団心理学についての洞察を得、ひいては、社会的存在としての人間理解を深めることを目的とする。

授業概要：1回目は社会心理学の測定に関する講義 (Introduction)。2回目は IAT, GNAT, AMP などの潜在指標の解説。3回目は、単純接触効果をテーマに閾下刺激と潜在指標を用いた実験について。4回目以降は、閾下単純接触効果、潜在指標に関する最新動向の実験研究を参加者が順次レポートする。

評価方法：レポート発表

教科書・参考書：参考資料を配付。

- ① Social Psychology and the Unconscious Edited by John A Bargh
(無意識と社会行動：高次心理過程の自動性 及川昌典・木村晴・北村英哉 編訳)
- ② サブリミナル・マインド 下條信輔 (中公新書)

授業外における学習方法：現在の社会変化に関心を持ち、深く考えること。

受講生に望むこと：受身ではなく積極的な参加の意識をもつこと。

授業計画

1. 社会心理学における測定の問題：相関と因果
2. 潜在指標について… IAT, GNAT, AMP
3. 閾下刺激と潜在指標による測定
4. 社会行動 (高次心理過程) の自動性について (参考書①第2章)
5. 閾下単純接触効果、潜在指標に関する最新動向の検討
6. 重要文献 (実験研究論文) の検討 (1)
7. 重要文献 (実験研究論文) の検討 (2)
8. 最近の研究文献の検討 (1)
9. 最近の研究文献の検討 (2)
10. 最近の研究文献の検討 (3)

臨床社会心理学特講 (01EE307)

(Lecture on Clinical Social Psychology)

授業形態：講義

授業時間：1学期 火曜日 第4・5時限

教室：人間 A321

単位数：2単位

履修年次：1・2年

担当教員：湯川進太郎

研究室：人間系学系棟 A307

オフィスアワー：水曜日昼休み

〈E-mail: s-yukawa@human.tsukuba.ac.jp〉

教育目標との関連：「①広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」に関連

授業の到達目標：学術論文を通して、臨床心理学的なテーマに対する社会心理学的なアプローチの仕方を身につける。また、心理学論文の読み方・書き方として、問題の展開、目的・仮説の設定、実験・調査の方法、データの分析方法や結果の記述、考察の仕方も併せて学ぶ。

授業概要：受講する学生が興味・関心のある学術論文（英文）を紹介し、受講生全員で討論する。

評価方法：授業への参加および発表、討論への参加姿勢に基づいて、総合的に評価する。

教科書・参考書：なし

授業外における学習方法：心理学以外の書籍を多読・乱読する。

受講生に望むこと：討論への積極的な参加を望む。

授業計画

1. イントロダクション
2. 最新の学術論文をもとにディスカッション
3. 最新の学術論文をもとにディスカッション
4. 最新の学術論文をもとにディスカッション
5. 最新の学術論文をもとにディスカッション
6. 最新の学術論文をもとにディスカッション
7. 最新の学術論文をもとにディスカッション
8. 最新の学術論文をもとにディスカッション
9. 最新の学術論文をもとにディスカッション
10. 受講生各自の修士論文のテーマに関するアドバイス

臨床心理学特講 (01EE401)

(Lecture on Clinical Psychology)

授業形態：講義

担当教員：小川俊樹・濱口佳和

授業時間：1・2学期 木曜日 第2・3時限

研究室：総合研究D棟 703他

教室：人間A202

単位数：4単位

オフィスアワー：教員により異なる

履修年次：1年

(メールによる問い合わせ)

教育目標との関連：「③現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner (科学者-臨床家)としての能力の養成」に関連

授業の到達目標：心理臨床を行っていくために必要な、臨床心理学の基礎知識を習得する。

授業概要：臨床心理学の諸基礎理論、心理アセスメントと介入の実際などを概説するとともに、心理臨床家の社会的役割、倫理等についても解説する。1学期を小川が担当し、2学期を濱口が担当する。

評価方法：授業への出席、討論への参加、レポート等で総合的に評価する。

教科書：1回目の授業にて提示

参考図書：授業中に適宜提示

授業外における学習の方法：心理相談室やこども相談室の活動への参加で、臨床経験を豊かにすること。

受講生に望むこと：積極的に質問すること。

授業計画 (各週毎授業計画) 1学期分 担当 小川俊樹

(1学期10回分。1回2時間配当。)

1. 臨床心理学の発展と現状
2. 臨床心理士の役割・業務・倫理・研鑽
3. インテークとインテークカンファレンス
4. 心理査定と臨床診断 (1)
5. 心理査定と臨床診断 (2)
6. 各種心理面接 (1)
7. 各種心理面接 (2)
8. 事例報告の検討 (1)
9. 事例報告の検討 (2)
10. 総括討論

まず(財)日本臨床心理士認定協会が定める臨床心理士の業務、倫理および研鑽などについて十分理解を深めるとともに、インテークカンファレンスなど相談室活動に参加する上で必要な基礎的知識を学ぶ。その上で、(1)英文テキスト等を参考に心理査定に必要な臨床診断と力動的診断の相違について、(2)ビデオなどの視聴覚教材を利用して各種心理面接の実際について、そして(3)研究誌の報告された事例報告をもとに、心理査定と心理面接の実際について理解を深める。受講生は積極的に討議に参加することを望んでいる。

臨床心理学特講 (01EE401)

(Lecture on Clinical Psychology)

授業形態：講義

授業時間：1・2学期 木曜日 第2・3時限

教室：人間A202

単位数：4単位

履修年次：1年

担当教員：小川俊樹・濱口佳和

研究室：総合研究D棟703他

オフィスアワー：教員により異なる

(メールによる問い合わせ)

教育目標との関連：「③現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner (科学者-臨床家)としての能力の養成」に関連

授業の到達目標：心理臨床を行っていくために必要な、臨床心理学の基礎知識を習得する。

授業概要：臨床心理学の諸基礎理論、心理アセスメントと介入の実際などを概説するとともに、心理臨床家の社会的役割、倫理等についても解説する。1学期を小川が担当し、2学期を濱口が担当する。

評価方法：授業への出席、討論への参加、レポート等で総合的に評価する。

教科書：1回目の授業にて提示

参考図書：授業中に適宜提示

授業外における学習の方法：心理相談室やこども相談室の活動への参加で、臨床経験を豊かにすること。
受講生に望むこと：積極的に質問すること。

授業計画 (各週毎授業計画) 2学期分 担当 濱口佳和

(2学期10回分)

1. 遊戯療法の理論
2. 遊戯療法の実際 (事例1・事例2)
3. 箱庭療法の理論
4. 箱庭療法の実際 (事例1・事例2)
5. 子どもを対象とした行動療法の理論と実際1
6. 子どもを対象とした行動療法の理論と実際2
7. 子どもの攻撃的問題行動 (反抗挑戦性障害・行為障害) の理解と臨床心理学的支援1
8. 子どもの抑うつ理解と臨床心理学的支援
9. 問題を持つ子どもの保護者の理解と臨床心理学的支援
10. 予備日

子どもの心理療法でよく用いられる遊戯療法、箱庭療法、行動療法の理論と実際を専門書・学会誌掲載事例論文を引用しながら詳細に説明する (第1回～第6回)。幼児期から思春期の間でよく見られる子どもの心理・社会的不適応の問題として、攻撃的な問題行動、抑うつ関連障害、不安障害を取り上げ、それぞれの問題について、操作的定義、アセスメント法、症状形成、疫学、臨床心理学的介入法について論じる (第7回～8回)。最後に問題を抱えた子どもの保護者への臨床心理学的支援の方法について論じる (第9回)。

臨床心理学面接特講 (01EE402)

(Lecture on Psychotherapy)

授業形態：講義・実習

授業時間：1・2学期 火曜日 第4・5時限

教室：人間A202

単位数：4単位

履修年次：1年

担当教員：○杉江 征・青木佐奈枝・佐藤 純

研究室：人間系学系棟 B328

オフィスアワー：水曜日 12:00～12:45

教育目標との関連：「③現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner (科学者-臨床家)としての能力の養成」に関連

授業の到達目標：心理臨床における面接の基本技術と心構えを身につける。

授業概要：この授業では、心理臨床における面接法の基本的な知識とスキルを習得することを目的としている。1学期は、第4時限目では、初回面接に関する文献についての各章を、参加者で分担し発表してもらおう。各発表では、内容をよりよく説明するための資料も適宜準備してもらおう。そして1学期で初回面接についての理解を深めていってもらおう予定である。一方、5時限目では、ミニ・カウンセリングを行い、実際の面接方法について体験的な学習を行っていく予定である。

評価方法：出席状況と課題への取り組み、授業への主体的なかかわり方をもとに評価を行う。

教科書：James Morrison (著), “The First Interview 3版” (2007)。

参考図書：土居 健郎(著), 『方法としての面接—臨床家のために』(1992)。など適宜授業中に紹介していく予定。

授業外における学習の方法：心理臨床に関する書籍や論文、事例報告など文献的な学習を行うとともに、日々の生活の中での自分自身の諸体験を通して、自己に対する理解を深めていって欲しい。

受講生に望むこと：心理臨床を学ぶ上で大切なのは、会話を通じた自己と他者との交流である。それゆえ、授業では、一方的な講義という形態をとらずに、学生と教員あるいは学生間の相互の対話を重視した形式で行う。授業の中で取り上げられる話題についても、各自がそれぞれの体験の中で吟味し、その話題と自己の在り方を問うことによって心理臨床の基本的な考え方の理解を深めていって欲しい。

授業計画

第1回目：レポーターの割り振りと「話を聴くこと」の概説を行う。「話を聴くこと」の概説の中では、話を聴くことについての「訓練の意味」などについても概説を行う。

第2回目以降

各回の4限目は“The First Interview 3版”の各章について、担当者が発表を行う。

5限目は、ミニ・カウンセリングの検討を行う。ミニ・カウンセリングは、各回、話し手と聴き手の役割をとった模擬面接場面の録音テープ（あるいはビデオ）と逐語録を作成し、それをもとに面接における話の聴き方を検討する。受講者全員が「話し手」と「聴き手」の役割を体験し、個々の受講者の実情に合わせた面接法の基礎的なトレーニングを実施していく予定である。

臨床心理基礎実習 (01EE403)

(Practice in Clinical Psychology: Basic)

授業形態：臨床実習

担当教員：小川俊樹, 杉江 征, 濱口佳和,
青木佐奈枝, 佐藤 純, 中込四郎

授業時間：1～3学期 木曜日 第4・5時限

研究室：総合研究D 棟703 他

教室：総合研究D117；人間B301

単位数：3単位

オフィスアワー：教員により異なる

履修年次：1年

(メールによる問い合わせ)

教育目標との関連：「③現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner (科学者-臨床家)としての能力の養成」に関連

授業の到達目標：インテークの実際を学び、インテークに必要な最小限の情報収集力の修得や適切なアセスメントを行うなど、インテーカーとして活動できるようになること。

授業概要：心理相談室やこども相談室でのインテークとインテークカンファレンスへの参加。

評価方法：相談室活動への参加とインテークカンファレンスでの発表、討論への参加等から総合的に評価する。

教科書：特になし。

参考図書：適宜提示する。

授業外における学習の方法：上述したように、相談室活動への参加が必須であり、その点では上述の授業時間外にも行われることに注意。

受講生に望むこと：積極的に参加し、質問すること。

授業計画 (各週毎授業計画)

心理的問題を抱えた学外者に有料で相談に応じている心理相談室とこども相談室を用いて実習を行う。教員のインテークに同席したり、インテークを観察し、インテークカンファレンスにも出席してケースをアセスメントの力を養う。1年次の必修科目であり、インテークカンファレンスへの出席が必須である。

臨床心理実習 (01EE404)

(Practice in Clinical Psychology)

授業形態：臨床実習

担当教員：小川俊樹，杉江 征，青木佐奈枝，
中込四郎

授業時間：1～3学期 木曜日 第5時限

研究室：総合研究D 棟703 他

教室：人間B301

単位数：3単位

オフィスアワー：教員により異なる

履修年次：2年

(メールによる問い合わせ)

教育目標との関連：「③現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner (科学者-臨床家)としての能力の養成」に関連

授業の到達目標：インテークを一人で実施できるとともに、スーパーバイズの下でケースを担当できるようになること。

授業概要：心理相談室および子ども相談室の活動に参加し、インテークカンファレンスへの参加。

評価方法：相談室活動への参加とインテークカンファレンスでの発表、討論への参加等から総合的に評価する。

教科書：特になし

参考図書：適宜提示する。

授業外における学習の方法：上述したように、相談室活動への参加が必須であり、その点では上述の授業時間外にも行われることに注意。

受講生に望むこと：積極的に参加し、質問すること。

授業計画 (各週毎授業計画)

心理的問題を抱えた学外者に有料で相談に応じている心理相談室を用いて実習を行う。実習ではケースを直接担当し、カウンセリングを行うのに必要な技能の習得に努める。したがって、担当ケースによっては、正規の授業時間外にも行われる。なお、心理相談室は夏期及び春期休暇中にも開かれているので、休暇中も授業が行われる。2年次の必修科目であり、インテークカンファレンスへの出席が必須である。

発達臨床心理実習 (01EE405)

(Practice in Developmental Clinical Psychology)

授業形態：実習

授業時間：1～3学期 木曜日 第4時限

教室：総合研究D117

単位数：3単位

履修年次：2年

担当教員：濱口佳和, 佐藤 純, 庄司一子

研究室：人間B326, D棟722, D棟315

オフィスアワー：濱口 (火曜日 18:00～18:30)

佐藤 (水曜日 12:15～13:45)

庄司 (木曜日 15:30～17:00)

教育目標との関連：「③現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner (科学者-臨床家) としての能力の養成」に関連

授業の到達目標：筑波大学子ども相談室での心理臨床活動および相談室のカンファレンスでの討論、グループ・スーパービジョンなどを通じて、幼児期から思春期頃までの心理・行動上の問題・軽度発達障害を持つ子どもとその保護者・学校教員などへの臨床心理学的支援の実践力を高める。臨床心理査定演習で学んだ諸検査のスキルを、相談活動の中で一層高めること、子どもへの支援法として遊戯療法や行動療法などの実践経験をつむこと、保護者面接の陪席・実践により、非指示的カウンセリングと子どもの問題についてのコンサルテーションの実践力を獲得することが目標とされる。

授業概要：財団法人臨床心理士資格認定協会が定める指定校の必修科目であり、受講は心理臨床コースの大学院生に限定される。受講生は筑波大学子ども相談室の相談研修員登録をし、相談室の定める研修相談員の種別に応じて子ども相談室での実践に、博士後期課程の大学院生、担当教員、非常勤相談員とともにチームを組んで従事することが求められる。その活動の一環として、相談室のカンファレンス、各事例におけるミーティング、担当教員によるグループ・スーパービジョンへの参加・発表・討論が求められる。

評価方法：相談室カンファレンス・グループ・スーパービジョンへの参加状況、担当事例での実践活動状況をふまえ、総合的に評価する。

教科書：特に指定はしない。

参考図書：杉原 一昭『事例でみる発達と臨床—カウンセリングの現場から』北大路書房

弘中正美『遊戯療法と子どもの心的世界』金剛出版

内山喜久雄『行動療法 (講座サイコセラピー)』日本文化科学社

M. ハーセン・V.B. ヴァン・ハッセル (編) (深沢 道子他訳)『臨床面接のすすめ方—初心者のための13章』日本評論社

授業外における学習の方法：担当する事例の問題行動などについて関連文献をよく調べること、各自が行った各回の子どもの心理療法や親面接の振り返りをよく行い、記録し、適宜まとめることが求められる。

受講生に望むこと：カンファレンスやグループ・スーパービジョン、事例ごとのミーティングに積極的に参加すること、心理臨床の実践者としての倫理を十分に自覚して実践活動を行うこと、各自が行った心理臨床実践について毎回よく振り返りを行い、長所短所を自覚し実践力の向上を目指してほしい。クライアントやその持ち物に対して損害を与えた場合の備えとして、相談室で進める保険に加入することを求める。

授業計画 (各週毎授業計画)

(1) 授業としての活動：1～3学期：毎週木曜日4・5時限に行われるカンファレンスへの出席

(2) 相談活動：

原則として月曜日～金曜日の子どもの相談室開室時間帯に、担当教員、非常勤相談員、他の相談研修員とチームを組んで相談活動を行う。相談時間は個々の事例によって決められる。各種検査面接、子どもへの心理療法の実践、保護者面接や受理面接への陪席、保護者面接の実践、などの役割を研修員の種別に応じて担当する。相談活動の各回における事前・事後のミーティングと担当ケースのグループ・スーパービジョンに参加する (グループ・スーパービジョンの開催日程は後日発表する)。また、相談活動の運営方法を学ぶため、相談室の実務活動に参加する。

臨床心理査定演習 I (01EE406)

(Seminar in Psychological Assessment I)

授業形態：演習

授業時間：1 学期 水曜日 第 5・6 時限

教室：人間 B301

単位数：2 単位

履修年次：1 年

担当教員：濱口佳和, 佐藤 純

研究室：D 棟 706 (人間 B326) , D 棟 722

オフィスアワー：濱口 (火曜日 18:00~18:30)

佐藤 (水曜日 12:15~13:30)

教育目標との関連：「②心理学的的方法論を駆使して問題を実証的に分析する能力の養成」, ③「現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner (科学者-臨床家) としての能力の養成」に関連

授業の到達目標：心理臨床の実践でよく用いられる個別式知能検査や発達検査について, それぞれの検査の背景理論の理解を深めるとともに, 演習を通じて, 検査の実施・採点, 個人の知能・発達水準の評価の仕方を身につける。

授業概要：心理臨床コースの必修科目。財団法人日本臨床心理士資格認定協会により指定校の必修科目と定められており, 受講は心理臨床コースの大学院 1 年生に限定される。夏季・冬季の休業中に各 1 日, 2 学期期間中のいずれかの水曜日に 2 日, 合計 4 日間にわたって, 各種検査の講義と DVD などを用いた実演を行う。受講後, 受講生はロールプレイまたは実地で各種検査を実施し, その結果をレポートにまとめることが求められる。各種個別式知能検査・発達検査, 質問紙タイプの心理尺度などを取り上げる。具体的な日程は追って知らせる。

評価方法：開催される講義への出席と提出されたレポートにより評価する。

教科書：特になし。各回において参考資料を印刷・配布する。

参考図書：上里一郎 (監修) 『心理アセスメントハンドブック』西村書店
氏原寛他 (編) 『心理臨床大事典』培風館

授業外における学習の方法：各回の講義終了後, 受講生は順番で検査器具とマニュアルの貸し出しを受けるが, この際, 練習を十分に行い, 検査の実施手順に習熟することが特に必要。

受講生に望むこと：全ての講義に出席し, 与えられたレポート課題を期日までに提出すること。また, 検査器具の貸し借りはルールと期日を守ること。

授業計画

第 1 回 (夏季休業中の 1 日)：知能検査の背景理論, 個別式知能検査の実習 I

第 2 回 (2 学期中の水曜の 1 日)：各種発達検査の講義と実習

第 3 回 (2 学期中の水曜の 1 日)：質問紙タイプの心理尺度

第 4 回 (冬季休業中の 1 日)：個別式知能検査の実習 II

*上記はおおよその予定である。正確な開催期日は追って決定, 告知する。

臨床心理査定演習Ⅱ (01EE408)

(Seminar in Psychological Assessment II)

授業形態：演習

授業時間：2学期 水曜日 第1・2時限

教室：人間B301

単位数：2単位

履修年次：2年

担当教員：小川俊樹，青木佐奈枝，望月 聡

研究室：D棟703, D棟704, D棟705

オフィスアワー：教員により異なる

(メールによる問い合わせ)

教育目標との関連：「②心理学的方法論を駆使して問題を実証的に分析する能力の養成」，③「現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner (科学者-臨床家)としての能力の養成」に関連

授業の到達目標：心理臨床の実践でよく用いられる心理検査の中、主として投影法と神経心理学的検査についてそれぞれの検査の背景理論の理解を深めるとともに、演習を通じて、検査の実施・採点、解釈法を学ぶ。

授業概要：心理臨床コースの必修科目。財団法人日本臨床心理士資格認定協会により指定校の必修科目と定められており、受講は心理臨床コースの大学院2年生に限定される。夏季・冬季の休業中にも実習を行う。受講後、受講生はロールプレイまたは実地で各種検査を実施し、その結果をレポートにまとめることが求められる。

評価方法：開催される講義への出席と提出されたレポートにより評価する。

教科書：特になし。各回において参考資料を印刷・配布する。

参考図書：上里一郎（監修）『心理アセスメントハンドブック』西村書店
氏原寛他（編）『心理臨床大事典』培風館

受講生に望むこと：全ての講義に出席し、与えられたレポート課題を期日までに提出すること。また、検査器具の貸し借りはルールと期日を守ること。

授業計画

第1回（小川が担当）：投影法検査の背景理論、主として描画法検査を学ぶ

第2回（青木が担当）：PF スタディの講義と実習

第3回（望月が担当）：神経心理学検査の講義と実習

児童臨床心理学特講 (01EE409)

(Lecture on Clinical Child Psychology)

授業形態：講義・演習

授業時間：1・2学期 火曜日 第6時限

教室：人間B335

単位数：2単位

履修年次：1・2年

担当教員：濱口佳和

研究室：人間系学系棟B326

オフィスアワー：火曜日 18:00～18:30

教育目標との関連：「①広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」に関連

授業の到達目標：児童・青年の心や行動の諸問題についての基礎的研究および臨床心理学的介入研究の最新の知見を獲得すること。

授業概要：児童・青年の心や行動の諸問題について書かれた英文の専門書、欧文雑誌などを取り上げ、担当を決めて輪読する。今年度は児童・青年の精神疾患への臨床心理学的アプローチについての米国の定評ある専門書の輪読を行う。

評価方法：各回の出席、担当部分の発表、レポートなどを総合的に評価する

教科書：特に指定しない

参考図書：Schroeder, C. S. & Gordon, B. N. (2002). *Assessment & treatment of childhood problems*. The Guilford Press.

授業外における学習の方法：発表の担当者は、割り当て部分を精読し、不明の事柄については関連文献に当たるなどして極力調べておくことなどして、その内容について理解を深めておくことが求められる。

受講生に望むこと：積極的な授業参加を望みます。質問や意見など、どんどん述べ、活発な論議を望みます。また授業で取り上げられた内容で、興味がひかれた事柄については、各自で積極的に文献を調べ、学習を進めることを望みます。単に当該領域の最新の知見を得るだけでなく、欧米における児童臨床心理学研究の現在の水準の高さしっかり認識し、今後各自が研究を進めていく上での示唆を得るようにしてほしい。

授業計画（各週毎授業計画）

第1回 ガイダンス

第2回以降は 参加者で14の章の分担をきめ、各章2時間程度を使って発表・討議する。

老年心理学特講 (01EE411)

(Psychology of Aging)

授業形態：講義・演習

授業時間：集中

教室：未定

単位数：2単位

履修年次：1・2年

担当教員：大川一郎

研究室：東京キャンパス E209

オフィスアワー：

教育目標との関連：「①広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」に関連

授業の到達目標：高齢者に対する心理臨床的なケアのあり方について、その考え方、方法論について理解する。

授業概要：心に問題を抱えた対象者になされるケアについて主に高齢者を対象にして、心理学的視点から考察していく。まず、生涯発達の視点から老年期の心理的特徴における基本的な特徴を押さえた上で、「高齢者の心理的理解及び支援において、求められるものは何なのか」という根本的な問題について事例を通して考えていく。その上で、痴呆症状を示す高齢者の事例も含めてさまざまな事例の考察を通して、心理臨床的なケアのありかたについて事例や実習を通して学んでいく。

評価方法：毎回の出席及び、授業中の課題の報告、討論への参加の度合い等によって総合的に判断する。

教科書：特に使用しない。授業の内容に応じたレジュメ、資料等を適宜配布する。

参考図書：授業時、適宜、紹介する。

授業外における学習の方法：新聞、雑誌、TV等で、高齢者にかかわる話題に敏感に反応し、読んだり見たりし、自分なりの考察を深めるように努める。また、課外授業として、老人施設への訪問、ケースワーク参加等も予定している。

受講生に望むこと：授業の中では、高齢者の行動の背景にある要因を推測していくことを手がかりにその対応について考えていく。授業の中で得た、知識、視点、方法論をさらに、自分なりに発展させて欲しい。

授業計画

- | | |
|--------|--|
| 1週～2週 | 生涯発達の視点からみた老年期 |
| 3週～4週 | 高齢対象者の心理的理解と援助 |
| 5週～6週 | 認知症者の心理的理解と援助 |
| 7週～10週 | 各自及びグループで課題に基づき、レポートをまとめ発表し、討論を行い、その内容について深めていく。課題としては、①特定の高齢者を対象にライフストーリーの聞き取りを行い、その内容について発表する、②高齢者施設での介護困難事例についてのケースワーク等を予定している。 |

● 開設時期等については、受講希望者は、授業担当者にメールで問い合わせること。

メールアドレス iot21005@human.tsukuba.ac.jp

病態心理学特講 (01EE414)

(Lecture on Pathological Psychology)

授業形態：講義・演習

授業時間：集中

教室：未定

単位数：2単位

履修年次：1・2年

担当教員：小川俊樹，望月 聡

研究室：D棟703，D棟704

オフィスアワー：教員により異なる

(メールによる問い合わせ)

教育目標との関連：「①広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」に関連

授業の到達目標：心理学の一研究法としての病的アプローチの意義を理解し、病態心理学の成果を学ぶ。

授業概要：病態心理学とは何かをまず講義し、次いで心理的な面からと神経心理学的な面からという、対照的なアプローチによる研究を、関係文献や資料の講読及び討論を通して、病態心理学的アプローチの理解を深める。

評価方法：出席状況、レポートの提出及び討論への参加などを総合的に評価する。

教科書：特になし

参考図書：授業中に適宜提示する。

授業外における学習の方法：関係文献を読み、発表に備えること。

受講生に望むこと：討論への積極的な参加。

授業計画

病態心理学という言葉は耳慣れないかもしれないが、仏語圏においては実験心理学にも比される心理学の基礎的な分野である。病態心理学とは、「行動や意識、そしてコミュニケーションの障害を研究対象とする学問である」(Sillamy, 2003)と定義されるが、心理的障害の詳細な観察や分析を通して、一般法則を見出そうとするアプローチである。このような病態心理学のパイオニアとして、運動性失語症を解明したBroca, P. P. の名前が挙げられることもあるが、通常はフランス心理学の祖と呼ばれているRibot, Th. に始まるとされている。病態心理学とは、病の心理学というよりも、病態理解を通して、一般心理を理解しようとするアプローチに他ならない(丹野義彦・小川俊樹・小谷津孝明編「臨床認知心理学」(近刊)東大出版会)。本講では、まず病態心理学について小川が講義し、次いで、上記のBrocaとRibotの例に認められるように、主として神経心理学的面からのアプローチについて望月が、主として心理的な側面からのアプローチについて小川が担当して、関係文献や資料の講読と討論を中心に、授業を進める。今年度は、対象として、「言語」を取り上げる。